

日米投信週次概況(2023年11月22日週)

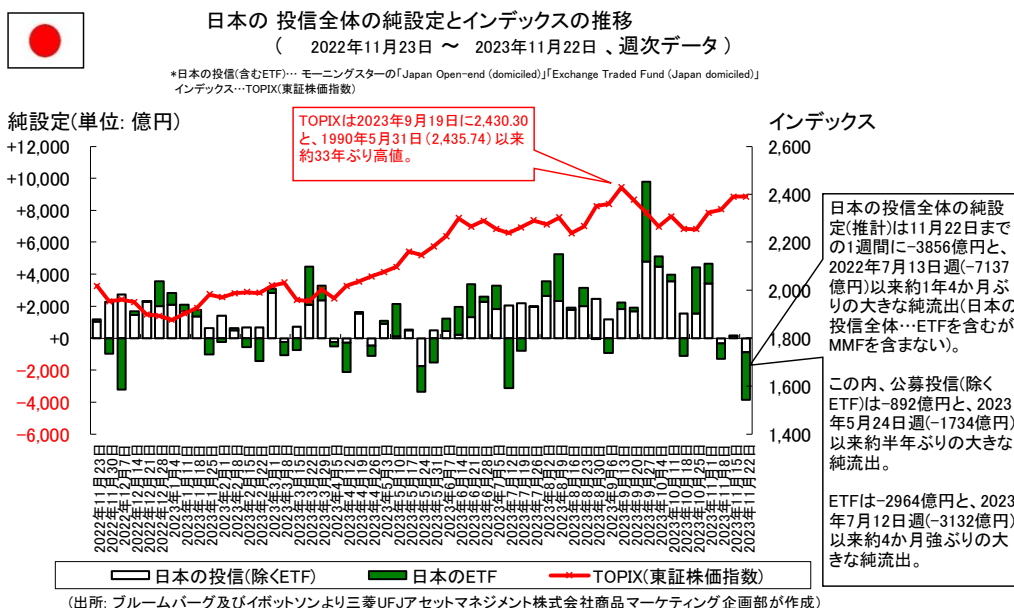
日本ではインド株人気、米国では米国株が人気！
米国で資金が殺到していた米国ハイールド債は今？
～米国ハイールド債と米国バンクローン～

三菱UFJアセットマネジメント株式会社 商品マーケティング企画部 松尾健治 (kenji-matsuo@am.mufj.jp)
窪田真美 (mami1-kubota@am.mufj.jp)

- 日本は日経225インデックスに利食いが続く中、純流入1位(除くSMA専用)はインド株！p.1
- 米国は米国株が2週連続で100億ドル/1.5兆円超の純流入！ 11月初旬に資金が殺到したハイールド債(ジャンク債)は鈍化傾向～米国ハイールド債と米国バンクローン～p.3

●日本は日経225インデックスに利食いが続く中、純流入1位(除くSMA専用)はインド株！

日本の投信全体の純設定/資金フロー(推計)は2023年11月22日までの1週間に-3856億円と、2022年7月13日週(-7137億円)以来約1年4か月ぶりの大きな純流出(日本の投信全体…ETFを含むがMMFを含まない～イボットソン調べ)。この内、**公募投信(除くETF)は-892億円と、2023年5月24日週(-1734億円)以来約半年ぶりの大きな純流出。**ETFも同様に-2964億円と、2023年7月12日週(-3132億円)以来約4か月強ぶりの大きな純流出。



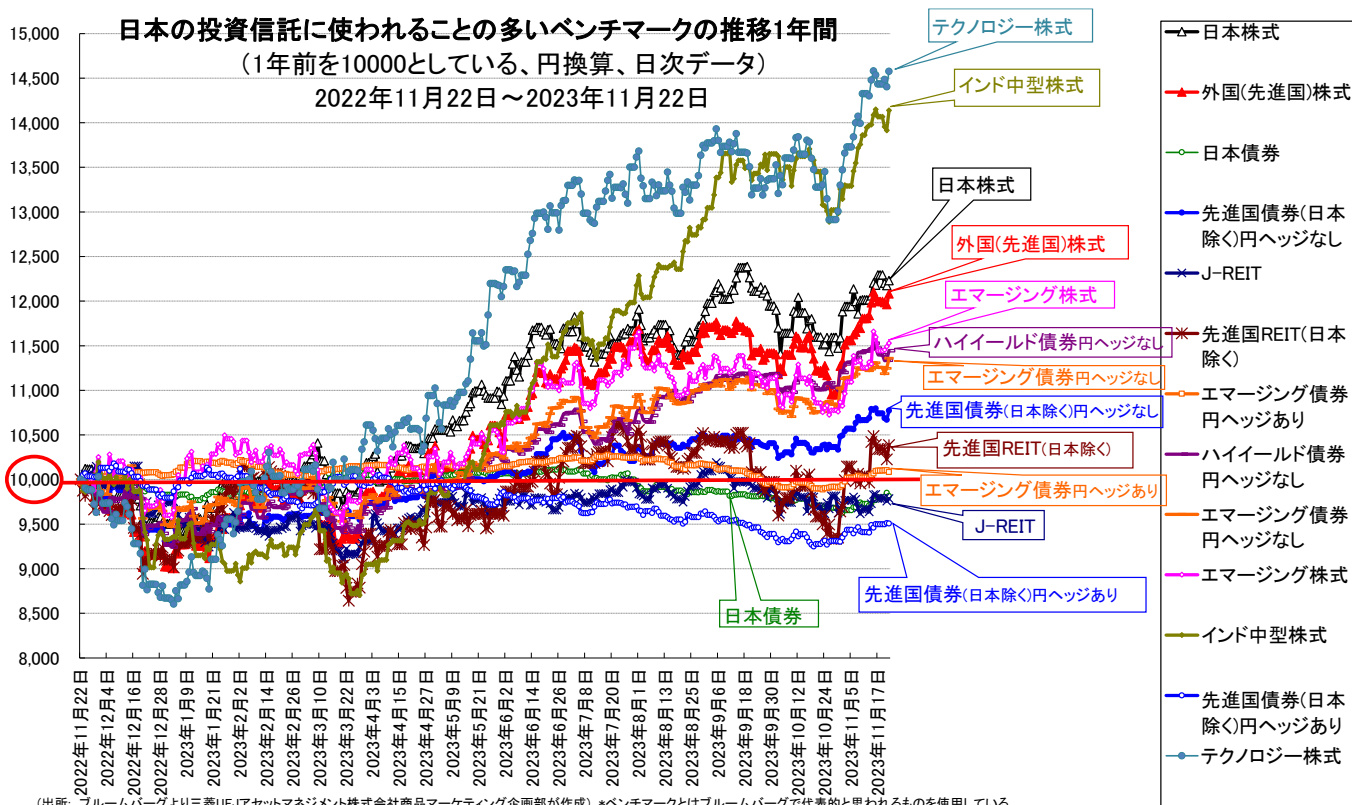
公募投信(除くETF)は2023年6月から10月にかけて純流入が5か月間続いていたが、11月は8日週、22日週と純流出。最新11月22日週の公募投信(除くETF)純設定額を分類別に見る。**純流入1～3位はグローバル債、インド株、北米株。純流出1～3位は日本株大型ブレンド、グローバル株、トレーディングレバレッジド/インバース株。純流入1位のグローバル債だが、最新週はSMA専用ファンドによるところが大きく、それを除けば1位はインド株。**インド株ファンドについては、2023年6月5日付投信調査レポートNo.397「日本でインド株ファンドに純流入が加速、米国でテクノロジー株ファンドに過去最大の純流入!!」(https://www.am.mufj.jp/text/outline_230605_2.pdf)、2023年8月21日付投信調査レポートNo.401「インドの資産運用業にブラックロックが復帰、フィデューシャリー・デューティーで日本や米国に先行するインド！日本では好パフォーマンスのインド株ファンドに47週連続純流入!!」(https://www.am.mufj.jp/report/investigate/_inf/fields/2023/08/21/outline_230821_2.pdf)を参照の事。

一方、純流出最大の日本株大型ブレンドは、日経225連動型インデックスファンドの利益確定売りが主導、直近3週連続93位/最下位。その前週11月1日週は全93分類中1位だった。

● 日本の投信の分類別週間純流入(純流入の大きい順) 2023-11-22現在
 *ETF・MMFを含まない。週次推計の為、月次のものとは異なる。

順位	分類名 (Morningstar Categories)	純流入 最新週 (百万円)	純流入 前週 (百万円)	純流入 4週計 (百万円)	純資産 (百万円)	備考 (和訳は三菱UFJ国際投信商品マーケティング企画部)
1	World Bond	+29,085	+3,500	+57,998	1,498,566	グローバル債
2	India Equity	+24,747	+13,940	+71,170	1,914,142	インド株
3	North America Equity	+16,935	+22,567	+169,862	13,560,661	北米株
4	World ex-Japan Equity	+7,977	+15,043	+69,062	8,353,671	グローバル株-日本を除く
5	Japan Small/Mid-Cap Value Equity	+7,855	+7,146	+27,682	970,495	日本中小型バリュー株
6	World High Yield Bond US	+5,320	+4,605	+16,597	1,244,313	米国ハイイールド債
7	Japan Large-Cap Value Equity	+3,678	+3,187	+14,618	227,085	日本株大型バリュー
8	Japan Money Market	+3,455	+1,938	+10,994	46,258	日本マネー
9	World ex-Japan Bond	+2,476	+3,088	+4,034	2,684,872	グローバル債-日本を除く
10	Commodity	+2,215	-2,163	+151	605,894	商品
84	World ex-Japan Bond - JPY Hedged	-4,193	+65	-33,795	1,426,894	グローバル債-日本を除く-円ヘッジ
85	World REIT	-5,236	-1,969	-3,841	1,668,099	グローバルREIT
86	Risk Control Allocation	-5,911	-5,095	-22,479	1,345,516	リスク・コントロール・アセットアロケーション
87	Moderate Allocation	-5,974	-265	+2,593	3,223,496	モデレート・アセットアロケーション
88	World Other Equity	-6,518	-3,002	-12,944	901,618	その他グローバル株
89	North America Equity - JPY Hedged	-8,177	-6,354	-21,148	904,556	北米株-円ヘッジ
90	World Equity - JPY Hedged	-11,852	-8,285	-30,573	1,393,041	グローバル株-円ヘッジ
91	Trading - Leveraged/Inverse Equity	-15,894	-8,313	-39,037	565,480	トレーディング-レバレッジド/インバース株
92	World Equity	-25,202	-956	+76,867	19,447,342	グローバル株
93	Japan Large-Cap Blend Equity	-69,905	-16,603	-96,782	8,080,177	日本株大型ブレンド
全93分類の合計		-89,153	+10,480	+231,057	104,240,482	
指数名		リターン※ 最新週 (%)	リターン※ 前週 (%)	リターン※ 4週 (%)		
TOPIX (東証株価指数)		+0.21	+2.92	+5.50		
S&P500		+1.24	+2.82	+9.01		
MSCI ワールド		+1.05	+3.08	+8.58		

(出所: ブルームバーグ、イボットソンより三菱UFJアセットマネジメント株式会社商品マーケティング企画部が作成)
 ※現地通貨(MSCI ワールドは米ドル)ベース、配当込み指数。



●米国は米国株が2週連続で100億ドル/1.5兆円超の純流入！ 11月初旬に資金が殺到したハイイールド債(ジャンク債)は鈍化傾向～米国ハイイールド債と米国バンクローン～

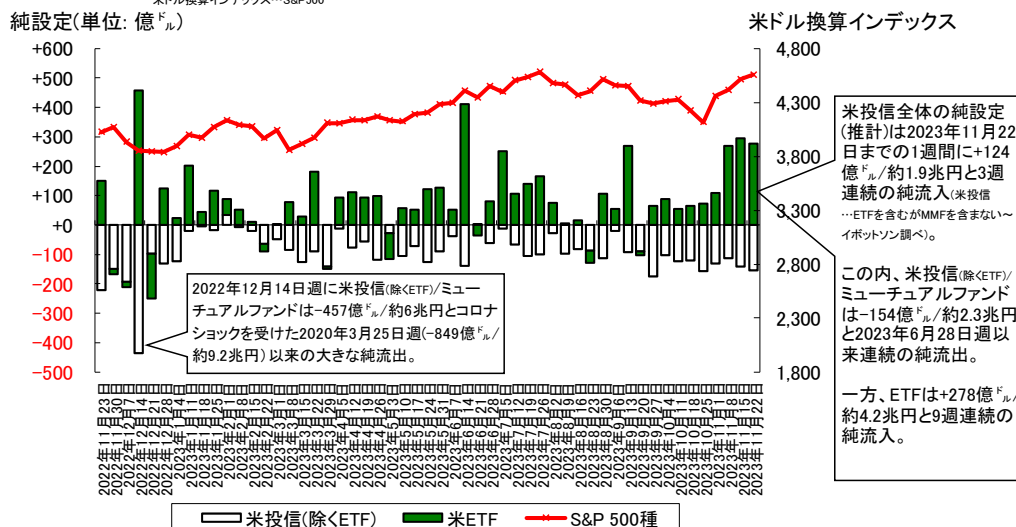
米投信全体の純設定/資金フロー(推計)は2023年11月22日までの1週間に+124億ドル/約1.9兆円と3週連続の純流入(米投信…ETFを含むがMMFを含まない～イボットソン調べ)。この内、**米投信(除くETF)/ミューチュアルファンドは-154億ドル/約2.3兆円**と2023年6月28日週以来連続の純流出、**ETFは+278億ドル/約4.2兆円**と9週連続の純流入(継続的なミューチュアルファンドの純流出

とETFの純流入にはミューチュアルファンドからETFへのコンバージョン/転換も寄与…2023年11月27日付日本版ISAの道 その391「アクティブ運用型ETFが米国を中心に世界で急増！」～ <https://www.am.mufc.jp/report/39w02a2/>)。



米国の投信全体の純設定と米ドル換算インデックスの推移
(2022年11月23日 ～ 2023年11月22日、週次データ)

*米投信(ETFを含むがMMFを含まない)… モーニングスターの「US Open-end & ETF ex MM ex FoF」。
米ドル換算インデックス…S&P500



(出所: ブルームバーグ及びイボットソンより三菱UFJアセットマネジメント株式会社商品マーケティング企画部が作成)

*米モーニングスターが発表する週次の純設定額(推計)は、算出時点で入手できる投信による推計であり、随時更新される(本レポートは作成時点の最新値を使用)。

2023年11月22日週の投信全体純設定額を分類別に見るとほぼ全面的に純流入の展開。 **米国株は+103億ドル/約1.5兆円と、4週連続純流入で、前週(+117億ドル/約1.7兆円)に続く100億ドル超となった。** セクター株が+17億ドルと3週連続、外国株は+3億ドルと11週ぶりの純流入。 **債券は+16億ドルと4週連続の純流入。** コモディティは+2億ドルと5週連続純流入。

より投資対象を細かく見る。米投信(含むETF、除くMMF)の分類別純設定額は次頁の通り。 **純流入1～3位は米国大型ブレンド株(S&P500連動など)、米国テクノロジー株、米国小型ブレンド株。** 一方、純流出1位は3週連続で米国超短期債。1位米国大型ブレンド株(S&P500連動など)は、前週11月15日週も1位←11月8日週2位(1位ハイイールド債)←11月1日週1位と旺盛な純流入が続いている。

前述したように、米投信全体の純設定(推計)は2023年11月22日までの1週間に+124億ドル/約1.9兆円で、うち米国株は+103億ドル/約1.5兆円。米国株のうち、米国大型ブレンド株(S&P500連動など)は+68億ドル/約1.0兆円、米国テクノロジー株は+31億ドル/約4600億円だった。

米投信の分類別週間純流入(純流入の大きい順) 2023-11-22現在
 *ETFを含むがMMFを含まない。週次推計の為、月次のものとは異なる。

順位	分類名 (Morningstar Categories)	純流入 最新週 (百万ドル)	純流入 前週 (百万ドル)	純流入 4週計 (百万ドル)	純資産 (百万ドル)	備考 (和訳は三菱UFJ国際投信商品マーケティング企画部)
上位 10 分類 ↑	1 Large Blend	+6,757	+6,705	+28,448	3,422,742	米国大型ブレンド株(S&P500連動など)
	2 Technology	+3,108	+1,545	+5,179	267,217	米国テクノロジー株
	3 Small Blend	+1,622	+1,131	+5,328	365,186	米国小型ブレンド株
	4 Large Growth	+1,575	+4,738	+5,232	1,727,567	米国大型グロース株
	5 Long Government	+1,537	+733	+3,253	110,605	米国長期国債(6年超)
	6 China Region	+1,081	-64	+1,032	28,221	中国株
	7 Intermediate Core Bond	+1,020	+1,031	+3,048	589,992	米国中長期コア債
	8 Mid-Cap Value	+960	-294	+140	240,794	米国中型バリュー株
	9 Corporate Bond	+858	+923	+5,089	139,398	社債
	10 Emerging Markets Bond	+643	+198	+871	52,665	グローバル・エマージング債米ドル建て
↓ 下位 10 分類	112 Energy Limited Partnership	-370	-63	-238	33,156	エネルギー株(MLP)
	113 Short-Term Bond	-382	-775	-3,057	327,943	米国短期債
	114 Utilities	-404	-183	-1,221	35,287	公益株
	115 Nontraditional Bond	-460	-212	-315	95,244	非伝統的債(絶対収益型など)
	116 Moderately Conservative Allocation	-467	-299	-1,234	48,463	モデレート・コンサバティブ・アセットアロケーション(株30~50%)
	117 Global Allocation	-508	-445	-1,936	249,503	グローバル・アセットアロケーション
	118 Inflation-Protected Bond	-543	-361	-1,710	114,568	米国インフレ連動債
	119 Foreign Large Growth	-571	-918	-2,164	347,087	外国株大型グロース株
	120 Large Value	-792	-154	-2,159	1,240,448	米国大型バリュー株
	121 Ultrashort Bond	-1,958	-1,312	-1,306	300,628	米国超短期債
全121分類の合計		+12,393	+15,507	+41,070	16,871,392	
指数名		リターン※ 最新週 (%)	リターン※ 前週 (%)	リターン※ 4週 (%)		
TOPIX (東証株価指数)		+0.21	+2.92	+5.50		
S&P500		+1.24	+2.82	+9.01		
MSCI ワールド		+1.05	+3.08	+8.58		

(出所: ブルームバーグ、イボットソンより三菱UFJアセットマネジメント株式会社商品マーケティング企画部が作成)
 ※現地通貨(MSCI ワールドは米ドル)ベース、配当込み指数。

「米国株とハイイールド債(ジャンク債)は共鳴して動く」(2019年6月14日付Reuters「U.S.-based high-yield junk bond funds - which move in sympathy with equity flows」~
<https://www.reuters.com/article/us-investment-manual-funds-fund-trk-appet-emerges-us-us-based-equity-funds-attract-4-4-billion-idUSKCN1T22Y7>)、
 「ジャンク債は株式を代替あるいは補完する投資先とされる。」(2022年9
 月23日付Barron's「Junk-Bond Yields Top 8%. It Could Be a Good Time to 」~ <https://www.barrons.com/articles/junk-bond-yields-top-8-it-could-be-a-good-time-to-buy-5166971339>)
 と言われ、2023年11月8日週に米国ハイ
 イールド債ETF(+49億ドル)が過去最大の純流入となり、投資家が殺到したハイイールド債(ジャンク債)はどうか(2023年11月13日付日本版ISA
 の道 その403「米国でハイイールド債(ジャンク債)ETFが過去最大の純流入！~現物交換ETFは米国投信改革「流動性リスク管理およびスウィング・プライシング」の対象外~」~ https://www.am.fund.jp/report/investigate/report_211113.pdf)

2023年11月22日付フィナンシャル・タイムズ/Financial Times/FTは、2023年11月(17日までの)ハイイールド債(ジャンク
 債)の流入について報じていた。 <https://www.ft.com/content/09e70d32-929f-492f-bb3d-b11e0d0e01>)。 その一部を引用する。

「EPFRのデータによると、11月17日までの1か月間
 で社債ファンドに160億ドル以上が流入しており、す
 でに2020年7月以降のどの月よりも大きな純流入額
 となっている。この傾向は主に『ジャンク』債に集
 中しており、今月はこれら低格付けハイイールド債
 ファンドに114億ドルが流入している。さらに50億ドル
 が、より質の高い社債を保有する投資適格ファンド
 に注ぎ込まれた。多額の資金流入は、インフレの
 冷え込みが米連邦準備理事会(FRB)の利上げサイク
 ルが終了したとの予測をいかに高めているかを浮
 き彫りにしている。



(出所: 2023年11月22日付Financial Times「Investors pour cash into US corporate debt in bet Fed rates have peaked」)

吹き出しなどは三菱UFJアセットマネジメント株式会社商品マーケティング企画部

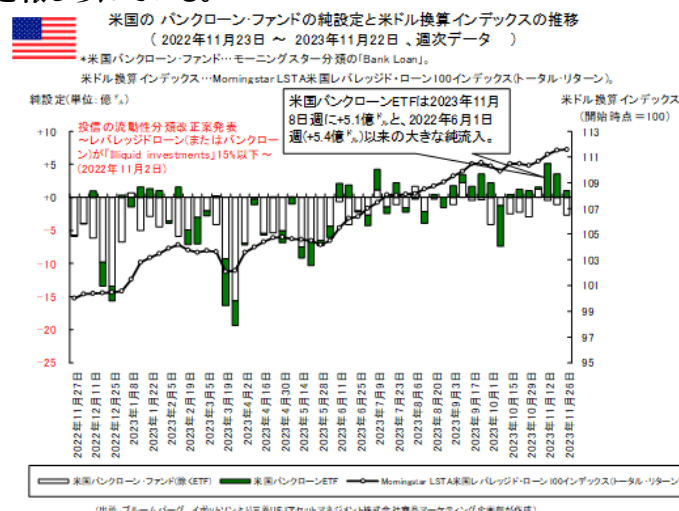
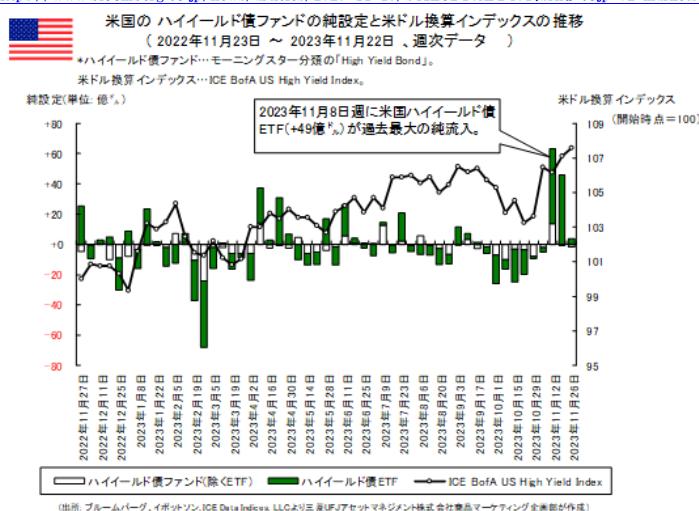
低格付けの債券を求める声は、高借り入れコストの軽減により、多額の負債を抱えた企業がデフォルトを急増させることなく減速する経済を乗り切ることができるとの確信が高まっていることも反映している。…(略)…。11月の資金流入は、ハイイールド債ファンドが10月31日までの1年間に180億ドル以上の流出に見舞われた後に起きた。一部のエコノミストや投資家は、借り入れコストが高止まりすることが明らかになれば、社債市場への新たな流入が再び反転する可能性があるかと懸念している。」(2023年11月22日付 Financial Times 「Investors pour cash into US corporate debt in bet Fed rates have peaked」)

米国ハイイールド債は、最新11月22日週に+2億ドル/約360億円と全121分類中19位(←11月15日週に+45億ドル、←11月8日週に+63億ドルと、2020年6月3日週以来約3年半ぶりの大きな純流入～イボットソン調べ)。その内、米投信(除くETF)/ミューチュアルファンドは-2億ドルと2週連続の純流出、ETFは+4億ドルと前週11月15日週(+46億ドル)や11月8日週(+49億ドル)の10分の1へ鈍化。

米国ハイイールド債同様、高利回りの米国バンクローンはどうか。共に投資適格未満の企業による資金調達であるが、通常、米国ハイイールド債が無担保で固定金利なのに対し、米国バンクローンは有担保で変動金利である。

米国バンクローンは最新2023年11月22日週に-2億ドル/約255億円と4週ぶり純流出となり全121分類中98位(イボットソン調べ)。米国バンクローンの内、米投信(除くETF)/ミューチュアルファンドは-3億ドルと3週連続の純流出、ETFは+1億ドルと7週連続の純流入も、鈍化傾向。「24年に最良のパフォーマンスが期待できる『逆張り』クレジットトレードとして、506の回答者の52%が高利回りのジャンク(投機的格付け)債に好機があると考えている。その一方で、地方銀行債や商業用不動産ローンなどには引き続きより慎重だ。」2023年11月13日付Bloomberg「ジャンク債が24年のトップ、有望な逆張りトレード-MLIV調査～」

<https://www.bloomberg.co.jp/news/articles/2023-11-13/S41LOBT0AFB401?srnd=cojp-v2-markets> と報じられている。



利上げサイクルが終了したと言う予測が高まると、米国バンクローンより米国ハイイールド債が志向される。また、2022年11月2日のSEC/証券取引委員会の投信改革案「オープンエンド・ファンドの流動性リスク管理およびスウィング・プライシング; フォームN-PX報告」案への懸念もある(2023年3月24日付投信調査レポートNo.393「日米投信週次概況(2023年3月22日週)米国ではSVB破綻の中、パッシブ運用投資

家が地銀株ファンド買い継続!? バンクローン・ファンド流出はSVBショックと言うよりSEC流動性分類変更か」～ https://www.am.mf.co.jp/text/ohiwre_230324.pdf、2023年11月13日付投信調査レポートNo.403「米国でハイイールド債(ジャンク債)ETFが過去最大の純流入!～現物交換ETFは米国投信改革「流動性リスク管理およびスウィング・プライシング」の対象外!」～ https://www.am.mf.co.jp/report/investigate/report_211113.pdf。通常、決済までに要する期間がハイイールド債よりバンクローンの方が長く、バンクローンはSECの言う「Illiquid investments/売却が難しい投資(現金化に7暦日超かかる資産)」となり、ミューチュアルファンド(オープンエンド・ファンド/open-end funds)では15%以下が上限/Limitationとなってしまう。だが、飽くまでもオープンエンド・ファンドつまりミューチュアルファンドの流動性リスク管理で「現物交換出来るETF/“in kind” exchange-traded fund(多くのETFが該当)」は除かれる。このあたりがハイイールド債やバンクローンのETF人気の背景にある(2023年11月27日付日本版ISAの道 その391「アクティブ運用型ETFが米国を中心に世界で急増!」～ <https://www.am.mf.co.jp/report/investigate/>)

なお、米国ではこのSECの投信改革案および新しいフィデューシャリー・ルール/ fiduciary rule「退職保障規則/リタイアメント・セキュリティ・ルール/ Retirement Security Rule」案など民主党主導の案は下院で行き詰まっている(023年11

月13日付日本版ISAの道 その390「米国ファイナンシャル・アドバイザー フィデューシャリー・ルールと最善の利益規制/Reg BIが人気の年金FIA」とロボアド&金融アプリを直撃！～FIAと同じゼロ・コスト・カラーのパフアーETF～」

https://www.am.mufg.jp/report/investigate/ohmm_23113.pdf)。これは米国の下院は共和党が221対212で過半数を占めているからである。上院は民主党が51対49で過半数を占めているものの、「上院民主党が、下院の歳出法案に盛り込まれた法案に同調する可能性は極めて低い。一部の民主党議員は共和党に加わり、ミューチュアルファンドにスウィング・プライシング/swing pricingを課すSEC案や、ブローカーディーラーと投資アドバイザーの予測データ分析使用に伴う利益相反などについて警鐘を鳴らしたり、非難したりしている。」と言われている(2023年11月10日付InvestmentNews「GOP riders to stop SEC rules face difficult legislative path」)

<https://www.investmentnews.com/gop-riders-to-stop-sec-rules-face-difficult-legislative-path-215561>、ミューチュアルファンドにスウィング・プライシング/swing pricingを課すSEC案は2023年2月27日付日本版ISAの道 その375「世界のファンド(含むMMF)流動性管理 米国の投信改革案も英国の資産運用制度改革案も スウィング・プライシング！ 非上場株/VC-PE投資は流動性管理と共に」 https://www.am.mufg.jp/text/ohshirase_230227_2.pdf)



2022年11月2日現在

米国SEC/証券取引委員会の投信流動性管理プログラム(1940年投資会社法 規則22e-4/Rule 22e-4、規則22c-1/rule 22c-1)

●(2015年5月20日公表当初案に続く)2015年9月22日公表改正案は「流動性分類は6分類(1営業日、2営業日～3営業日、4日～7日、8日～15日、16日～30日、30日超)」。●2016年10月13日公表最終案は「流動性分類は4分類(Highly Liquid Investments, Moderately Liquid Investments, Less Liquid Investments, Illiquid investments)」、「スウィング・プライシング/Swing Pricingを選択出来る」、「現物交換出来るETF/“in kind” exchange-traded fund(多くのETFが該当)を除く」、「流動性スコアを公表する」であり、純資産10億ドル以上の会社は2018年12月1日施行、純資産10億ドル未満の会社は2019年6月1日施行。●2018年2月21日に施行が純資産10億ドル以上の会社は2019年6月1日に1年延期、純資産10億ドル未満の会社は2019年12月1日施行に半年延期。2018年3月14日に流動性スコアは非公表に(パブコメ後決定)。●2022年11月2日公表改正案は「Highly Liquid Investmentsの10%維持」、「流動性分類は3分類(Less Liquid InvestmentsをIlliquid Investmentsに含める)」、「スウィング・プライシングを義務付ける」、「ハード・クローズ/hard closeを要求する」など(2023年2月27日付日本版ISAの道 その375「世界のファンド(含むMMF)流動性管理 米国の投信改革案も英国の資産運用制度改革案も スウィング・プライシング！ 非上場株/VC-PE投資は流動性管理と共に」 https://www.am.mufg.jp/text/ohshirase_230227_2.pdf)。	流動性分類/Classification of the Liquidity(4分類/Four Liquidity Categories) *少なくとも毎月見直す～価格に大きな影響を与えず現金化出来るまでの日数による分類が基本(アセットクラスによる分類も可)～			
	Highly Liquid Investments	Moderately Liquid Investments	Less Liquid Investments ⇒(改正案では)右の Illiquid investments	Illiquid investments /売却が難しい投資
通常の市場環境で価格に大きな影響を与えず3営業日以内に現金化出来る資産 *(改正案では)10%以上維持(デリバティブ取引の証拠金・担保を除く) *下限/Minimum(%)を設定、下限を下回った時の方針や処理を決定、下限を下回った時はファンド取締役会に報告	通常の市場環境で価格に大きな影響を与えず現金化する事に3日超かかるが、7日以内の資産	通常の市場環境で価格に大きな影響を与えず7日以内に売却や処分の約定が出来るものの現金化に7日超かかる資産 ⇒(改正案では)右の Illiquid investments	通常の市場環境で価格に大きな影響を与えず7日以内に売却や処分の出来ない可能性がある資産 ⇒(改正案では)現金化に7日超かかる資産 *15%以下⇒(改正案でも)15%以下 *上限/Limitation(%)を設定 上限を上回った時はファンド取締役会に報告(方法も含め)、30日以内に解決しない場合はファンド取締役会が判断	
・ミューチュアルファンド(除くMMF、除くETF)は不安定な市場環境/unstable market conditionsで「スウィング・プライシング/Swing Pricing」を選択出来る(2016年10月13日)⇒(改正案では)義務付ける。設定・解約をする投資家の基準価額に売買コスト等を転嫁、既存投資家の希薄化/Dilutionを避ける(欧州では導入例も多い)。著しく影響を与える純流入・純流出の量～Swing Threshold/閾値/しきい値/いき値～になったらスウィング・プライシングとする事が出来る⇒(改正案では)しなければならない。純流入の場合はスウィング・ファクター/Swing Factorを加えて基準価額を引き上げ、純流出の場合はスウィング・ファクターを引いて基準価額を引き下げる。スウィング・ファクターは最大値である2%以下で決め開示する⇒(改正案では)2%以下は撤廃。この閾値は毎年見直し、ファンド取締役会がその方針・手順を認める必要がある。				

※1: NAV/Net Asset Value…純資産総額で一株当たり純資産総額の基準価額は「per share NAV」だがNAVだけで基準価額を指す場合が多い。
 ※2: ストレステスト/健全性審査(市場激変時の換金に対して流動性が十分確保されているか)…2016年6月22日にFSB/金融安定理事会是欧米の規制当局に対し、資産運用会社を対象としたシステム全体のストレステストを実施する事や流動性が低い資産の保有を制限する新たな規則の策定を検討する事を求めている。

(出所: SEC/証券取引委員会より三菱UFJ国際投信株式会社商品マーケティング企画部が作成)

以上

三菱UFJアセットマネジメント【投信調査コラム】日本版ISAの道(及び投信調査レポートの一部)のバックナンバー:

「 <https://www.am.mufg.jp/report/investigate/> 」。

三菱UFJアセットマネジメント株式会社 商品マーケティング企画部

松尾 健治(kenji-matsuo@am.mufg.jp)、

窪田 真美(mami1-kubota@am.mufg.jp)。

本資料に関してご留意頂きたい事項

■本資料はNISA(少額投資非課税制度)など内外の資産運用に関する情報提供のために、三菱UFJアセットマネジメントが作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。販売会社が投資勧誘に使用することを想定して作成したものではありません。投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

■本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。

■本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。

■本資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。

■本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の筆者の見解です。

■投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。

■投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

■投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。

本資料中で使用している指数について

■TOPIX(東証株価指数)に関する知的財産権その他一切の権利は株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社に帰属します。

■MSCI ワールド インデックスに対する著作権およびその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

■ICE BofA US High Yield Indexは、ICE Data Indices, LLC, ICE Dataまたはその第三者の財産であり、三菱UFJアセットマネジメントは許諾に基づき使用しています。ICE Dataおよびその第三者は、使用に関して一切の責任を負いません。



三菱UFJアセットマネジメント

三菱UFJアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会